日本植物病理学会ニュース　第 31 号

（2005 年 8 月）

【名誉会員・永年会員・貢献者の略歴とお話】

名誉会員　浅賀宏一

昭和10年３月19日東京都で出生．昭和28年東京大学理科２類入学．昭和32年東京大学農学部農学科卒業．同年農林省入省四国農業試験場勤務．昭和38年農事試験場に転勤．昭和52年農林水産技術会議事務局副研究管理官．昭和54年東北農業試験場栽培第１部病害第１研究室長．昭和59年農林水産技術会議事務局研究開発官．昭和60年同研究開発課長．昭和62年農業研究センター企画連絡室長．昭和63年四国農業試験場長．平成３年農業環境技術研究所長．平成５年農水省を退職．平成６年（株）サカタのタネに技術顧問として入社，現在にいたる．その間，平成８年から３年間同社取締役，掛川総合研究センター場長をつとめた．東京農業大学客員教授（平成17年まで）．この間，農水省時代はもっぱら水稲の病害，中でもいもち病の抵抗性に関する研究に取り組み，昭和56年には「イネ品種のいもち病に対する圃場抵抗性の検定方法に関する研究」で東京大学から農学博士を授与された．また，サカタのタネでは野菜の病害抵抗性，種子消毒問題等の解決に精力的に活動している．平成３年には「イネ品種のいもち病に対する圃場抵抗性に関する研究」で，日本植物病理学会賞を受賞した．また，昭和50年，学会事務局の農業技術研究所から植物防疫協会への移転時の庶務幹事をつとめ，さらに平成２年から評議員，平成６年日本植物病理学会副会長，平成７年に会長及び日本植物病理学会80周年記念事業委員長をつとめた．その他，情報電子化委員会委員長，日本農学会評議員等を歴任した．科学というものは，人類の築きあげてきた知識体系に新しい知見（真理）を，付加するものであり，必ずしもその成果が実際に使われるということとは無関係といわれる．しかし，農学のような学問分野では，使われない研究成果というのは自己満足に過ぎない．そして，現実の場面で研究成果を使おうとすれば技術化の問題に直面する．技術化がうまく出来なければ，研究成果は使えるものにならない．是非，自分の研究成果を技術化して社会に還元できるよう，研究の最初の段階から，常に明確な意識をもってもらいたいものと思う．

名誉会員　高橋　壯

昭和10年２月23日岩手県に出生．昭和32年岩手大学農学部農学科卒業．名古屋大学大学院に入学し，昭和41年同大学院博士課程を修了．農学博士．次いで，名古屋大学助手，農林省植物ウイルス研究所研究員を経て，昭和42年岩手大学農学部助教授，昭和60年同大学教授．平成4年日本植物病理学会賞受賞．平成６年岩手大学大学院連合農学研究科長併任，平成８年同大学農学部長併任．平成12年同大学停年退官，名誉教授となる．平成12年（財）いわて産業振興センター研究開発支援事業顧問，平成14年岩手県農業研究センター所長の任につき，平成17年退任した．大学院時代から，植物ウイルスとその感染症の研究に従事，特に，昭和48年アメリカ農務省ベルツビル農業研究センターにおけるディーナー博士とのウイロイド研究を契機として，わが国のホップわい化病の自然存続の仕組みの解明に取り組み，その制圧技法を確立，これらの成果が他のウイロイド感染症にも応用し得ることを提示した．昭和57年厚生省特定疾患「遅発性ウイルス感染」調査研究班に参加し，動物ウイルス研究者との交流・共同研究に従事した．学会では，日本植物病理学会編集幹事長，評議員，東北部会長，大会委員長，学会長，植物ウイルス病研究会代表，植物ウイルス分類委員会委員長，国際ウイルス分類委員会・植物ウイルス分科会日本代表委

員，日本農学会評議員，日本ウイルス学会幹事，同理事などを歴任した．他に，文部省学術審議会専門委員，農林水産省農林水産技術会議専門委員など．現在，日本農学アカデミー会員．平成８年度より日本植物病理学会報のあり方について，学会評議員会で検討を始め，学会長在任中の平成12年１月から和文誌と英文誌が分離刊行された．また，この節目の年に，従前の有用植物に新たに野草，きのこを宿主に加えた「日本植物病名目録」が発刊された．いずれも，関係委員各位の献身的なご尽力の賜であり，改めて感謝の意を表したい．学会報は「学会の顔」であると私は考えます．学会員一人ひとりが時代感覚を基に，それぞれの役割をふまえ，わが日本植物病理学会を盛り上げていただきたいと希望します．

永年会員　赤井　純

昭和４年５月５日北海道で生まれる．昭和25年北海道大学附属農林専門部卒業，同年農林省北海道農業試験場病理昆虫部に勤務した．田中一郎部長にタマネギ黒穂病の防除について課題を与えられ，本病を種子消毒することによる防除対策を確立したのが最初の成果であった．また，鈴井孝仁氏，馬場徹代氏と机を並べ，植物病理学の魅力と視野の広さを教わったことは終生忘れられない．

昭和41年北海道立農業試験場に転出し，北海道十勝地方で激甚発生している豆類の菌核病の生態解明と防除方法の課題を与えられた．豆類菌核病は古くから発生している病害であるが，当時はその対策が無く，約10万ヘクタールの豆類が壊滅的被害を受けていた．本病害の生態解明と防除についての研究は同僚の坪木和男氏との共同研究で解決することが出来た．また，成田武四帯広畜産大学教授（病理学会永年会員），ならびに宇井格生北大名誉教授のご指導，ご協力を戴いた賜であり，両恩師に深く感謝する次第である．

昭和45年には新病害アズキ落葉病を命名し病原菌を同定した（成田武四，坪木和男共同）．

昭和55年北海道大学農学博士の学位を受けた．同年道立中央農業試験場に転じ，土屋貞夫，児玉不二雄，近藤則夫，尾崎政春の良き研究者諸氏に恵まれて，多くの研究成果を得たのは誠に幸せであった．厚く謝意を表する．勿論，諸氏はそれぞれ学位を取得した．昭和63年定年退職し，全国農業協同組合連合会札幌支所技術主管，平成４年社団法人北海道植物防疫協会会長を務め，同時に日本植物防疫協会理事を務めた．また，昭和62年からは日本植物病理学会北海道支部部会長，同学会評議員を務めた．

著書としては「北海道畑作物の土壌病害：402頁」（分担執筆），「北海道における農作物および観賞植物の病害誌：710頁」（共著），「北海道病害虫防除提要1986：495頁」（共著）などがある．表彰などは省略する．

多くの先輩，同僚のご指導，ご鞭撻によってここまで到達することが出来，改めて諸氏に感謝する．

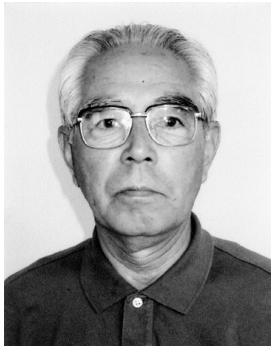
永年会員　藤田育資

昭和４年６月26日生 出生地徳島県．学歴：昭和23年４月徳島県立農事試験場講習所卒業．職歴：昭和23年５月徳島県立農事試験場菌虫科，昭和23年11月徳島県立農事試験場病害虫発生予察富岡観察所（後の那賀地方病害虫防除所合併により阿南地方病害虫防除所に），平成２年３月阿南地方病害虫防除所を退職．研究暦：昭和23年～平成２年３月まで．日本植物病理学会に昭和25年入会し，現在に至る．研究内容：県南部を担当し農作物麦類水稲，ハウス栽培キュウリ・トマト・イチゴ・ミカン・スダチ，温室カーネーション，路地ミズブキ・ショウガ・ニンジン・シャクヤク・ミカン・スダチ・ユズ・ウメ等，これらの病害虫発生状況調査・病害虫発生予察事業の推進，農薬による病害虫の防除試験で業務成績は植物防疫成績書とし毎年作成し，関係者に提供している．結果：少しですが早期稲はウイルス病類の発生が多く，作業の近代化と防除効果をあげるため昭和37年より空中散布を導入したので，散布時期散布量の試験を実施し防除に役立て，昭和40年には県下で19地区 9,000 ha で実施．対象はウイルス病類と葉いもち病で，他は地上防除であった事もあり，昭和40年徳島県見能林地区で農林省航空新技術実用化促進事業の適用を受け早期稲が主で一部普通期稲 650 ha でヘリコプタ利用通年防除を実施．この地区は病害虫の発生の多い地区で，防除困難な紋枯病を除き４回の航空防除を実施．近くの地上防除の対照地区と比し収量多く品質も良く防除経費も安かったこともあり，良い効果があったと思われた．事業成績は県農業改良課，阿南地方病害虫防除所より発表した．その後，紋枯病も含め通年防除を実用化したかったが，紋枯病の防除困難なことと農薬問題（有

機水銀剤・塩素剤）があり実現しなかった．また昭和60年頃より多くなった稲穂枯れについて，多発地区にて試験を実施し穂孕期，穂揃期の2回散粉で効果のある剤も有った．また阿南地域で初発生のイネミズゾウムシと葉いもち病，紋枯病との同時防除剤も判明した．

日本物病理学会及び学会員に対する要望等：農薬の安全使用基準が厳しくなり，防除困難な病害が多くなったこともあり，農薬，防除法の再検討をお願い致します．

永年会員　瑞山重男



生年月日　大正13年４月20日
出 生 地　東京都
学　　歴　東京農業大学農学部農学科卒業
職　　歴　東京農業大学助手・講師・助教授・教授　平成６年定年退職
研 究 歴　*Sphaceloma* 属菌に関する研究

主に *Sphaceloma* 属菌の分類，並びに同菌の寄主体への侵入経路にも興味をもっておりましたが，研究室の移転に伴い，蒐集した菌株のすべてを失ったことは残念でなりません．

永年会員　井上成信

昭和４年７月２日広島県で出生．昭和26年岐阜農林専門学校農学科卒業．同年岡山大学農学部附属大原農業研究所に勤務．同研究所は昭和28年同大学附置農業生物研究所，更に同63年資源生物科学研究所と改称．助手を経て，同49年２月助教授．同60年４月教授．同37年東北大学より農学博士の学位を受けた．同自然科学研究科（博士課程）運営委員会委員，同附属図書館資生研分館長，岡山大学40年史編纂委員などを兼務．平成７年３月定年退官．同８年名誉教授．その間，昭和53年６ヵ月間オランダ国立植物保護学研究所（IPO），同57年３～５月台湾植物保護学研究中心（PPC），同59年４～７月カナダ国アルバータ大学に客員研究員として出張．その他国際会議に出席または研究調査・情報交流のため，イギリス，ドイツ，ベルギー，フランス，イタリア，アメリカ，オーストラリア，ニュージーランド，シンガポール，インドネシア，タイの各国の大学・研究所を訪問．非常勤講師：岐阜大学，香川大学，高知大学．学会活動：日本植物病理学会の編集幹事，評議員，植物ウイルス分類専門委員会委員，関西部会幹事，会計監査，関西部会長．国際ウイルス分類委員会―植物ウイルス分科会 Potyvirus 検討会委員．国際会議に参加・発表：第３～６回国際植物病理学会議，第３，６回国際ウイルス学会議，第６，７，11回国際観賞花卉植物ウイルスシンポジウム，’87，’92国際ラン会議，第24回国際園芸学会議，第５回アジア太平洋ラン会議等．講演：日本ラン協会（６回），’92国際ラン会議．農水省門司および神戸植物防疫所，北海道蘭友会を始め多くの地域ラン協会（15回），台湾大学・中興大学・台湾蘭協会等計35回．受賞：平成４年１月第50回山陽新聞賞学術功労賞（花卉植物に発生するウイルス病の研究），平成４年５月日本植物病理学会賞（花卉園芸植物特にラン科植物ウイルス病に関する研究）．研究：花卉植物のウイルス病に関する研究が多いが，特にラン科・球根類花卉植物に発生するウイルスの検索，分類・同定並びに病原学的研究．ラン科植物ではウイルス病発生のほぼ全貌を明らかにし，その防除に貢献した．著書：原色ランのウイルス病－診断・検定・防除（2001，農文協）．分担執筆には，洋ラン，花のバイオ技術，原色図説花と庭木の病害虫，植物病理学事典，施設園芸学（台湾）等12冊．植物病理学の研究使命は人類生存の食料を確保するための病害防除が最終目的であることを銘記して欲しい．

永年会員　石井正義

昭和５年２月５日岡山県で生まれ，昭和29年３月岡山大学農学部卒業，同年４月関東東山農業試験場（後に農事試験場）病害第一研究室に採用される．昭和46年７月中国農業試験場病害第二研究室長，昭和51年４月四国農業試験場病害研究室長，昭和56年４月野菜試験場病害第一研究室長に配置換えされ，平成２年３月に定年退職した．以後７年間にわたって，全国農村教育協会に嘱託として勤務した．

関東東山農試では，当時地域内で多発生していた稲縞葉枯病等ウイルス病の発生生態の究明に，関係諸県の協力を得ながら，安尾　俊室長と室員３名が一丸となって取り組んだ（農事試報８，13，14，17）．昭和46年には「稲萎縮ウイルスの伝染に関する研究」で東京農大から学位

を授与された．中国農試では，管内に近畿の府県が編入されたため，野菜病害の研究に力点を移すとともに，稲育苗箱で多発生した馬鹿苗病，ごま葉枯病，苗立枯病の防除に関する共同研究も実施した（近畿・中国共同研究成果集録６）．四国農試では，野菜病害の他，育苗箱で多発生したごま葉枯病苗の利用方法を明らかにし（四国植防15，16），野菜試では，香川県農試と共同で，ニンニク青かび病（新病害）の病原と発生生態を明らかにし，防除法を確立した（四国植防21）．全国農村教育協会では，岸　国平博士のご指導と多くの方々のご協力により，野菜・花き病害の病徴・被害写真の撮影を行い，日本植物病害大事典に利用されている．

矢掛中学卒業の昭和22年頃は，食糧・資金とも充分でなく，近くの岡山青年師範学校（倉敷市）に入ったが，たまたま大原農業研究所（現岡山大）で西門義一博士にお会いし，病害研究の重要性と面白さに触れ，卒業と同時に作物病学を学ぼうと岡山大学に進学した．以後よき研究者に囲まれ，一貫して作物病害に関する仕事に係ることができて大変幸せであった．ただ，目の不調で，離職後の「趣味の病害研究」が出来なくなり残念に思っている．

学会のますますのご発展をお祈り申し上げる．

永年会員　中村廣明

昭和４年11月２日東京府杉並町（現東京都杉並区）に生まれ，昭和20年５月の空襲で家を焼失するまで東京に居住した．終戦後は埼玉県に仮住して，旧制浦和高等学校（理科）を経て東京大学農学部農学科を昭和28年に卒業しました．

前年秋に人事院の国家公務員試験に合格していましたので，直ちに農林省の技官に採用され，農薬検査所に着任，昭和61年３月末に国家公務員を退職するまでの33年間に渡り農薬検査所に勤務し，この間，農薬残留検査課長，企画調整課長，検査部長，所長を歴任しました．この在籍中の昭和34年１月から１年間フランス政府の留学生として国立農学研究院（INRA）で植物の組織培養で有名な Dr. Morel の指導を受けて，その培養技術を日本に持ち帰り普及に努めました．

昭和61年４月より全国農業協同組合連合会の肥料農薬部技術主管となり，全国各地で農薬の正しい使い方を薦めるように「特に食用作物に残留の可能性を問われる場合」は注意ができるように努め，定年に達したので平成７年に同会を退職しました．

次いで平成12年に財団法人報農会理事の互選により理事長に就任し，植物防疫を通じて，学術，事業の発展のため，人材の育成や技術の研究交流に微力ながら努め，平成17年５月退任しました．

貢献者　甲元啓介

昭和９年11月19日岡山県で出生，昭和28年岡山県立津山高校卒業後，鳥取大学農学部農学科を経て，32年京都大学大学院農学研究科に進学，35年同研究科博士課程を中途退学した．同年日本曹達（株）生物研究所入社，昭和43年鳥取大学農学部助手に採用され，同助教授を経て56年教授に昇任，平成12年定年退官した．この間，昭和51年に「リゾクトニア属病原菌毒素の生成に関する植物病理化学的研究」で農学博士（名古屋大学）を取得，52―53年文科省在外研究員として米国ミシガン州立大学に留学し，R. P. Scheffer 教授に下で宿主特異的毒素の研究に従事した．また，北海道大学，名古屋大学，三重大学，岐阜大学，京都大学および島根大学の大学院農学研究科の非常勤講師を勤めた．鳥取大学名誉教授．平成12年（財）日本きのこセンター菌蕈研究所研究顧問に就任，現在に至る．学会活動：評議員，原著編集委員，関西部会長．研究活動：日米科学セミナー（1981，1986，1990），FAO/IEAE 国際研究会議（1987，1989，1991），NATO 国際研究集会（1988），国際植物病理学会（1983，1988，1993，1998），韓国植物病理学会（1986），国際生化学・分子生物学会議（1994），国際園芸学会梨シンポジウム（2000）で招待講演等を行った．また，宿主特異的毒素に関する鳥取大学国際シンポジウムを開催（1988，1993，1997）した．受賞：発明協会総理大臣賞「農園芸用殺菌剤チオファネートの創成」（1976），故西村正暘先生と連名で日本農学賞・読売農学賞「植物病原糸状菌の宿主特異的毒素とその作用機構」（1988），米国植物病理学会賞（Fellow）「アルターナリア属菌の宿主特異的毒素」（1995）．

基礎研究の“種”は農業現場にあり，その成果は現場で試されると思う．これまでの研究展開には，恩師を始め，多くの先輩や共同研究者のご指導やご協力に負うところが大きい．このたび貢献者として推挙されましたことは身に余る光栄です．改めて皆様に衷心よりお礼申し上げると共に，日本植物病理学会のさらなる発展を祈念いたします．

【会員の動静】

1. 人　事

（1）大学関係

横澤菱三　H17. 3　北海道医療大学　薬学部　人間基礎科学　退官

羽柴輝良　H17. 3　東北大学大学院　農学研究科　環境適応生物工学分野　教授　退官

松本　勤　H17. 3　秋田県立大学短期大学部　教授　退官

原田幸雄　H17. 3　弘前大学農学生命科学部　教授　退官

宇垣正志　H16.10　東京大学　大学院新領域創成科学研究科　資源生物創成学分野　教授

鈴木　匡　H17. 4　東京大学　大学院新領域創成科学研究科　資源生物創成学分野　助教授

吉田穂積　H17. 4　東京農業大学　生物産業学部　教授

矢口行雄　H17. 4　東京農業大学　地球環境科学部　教授

奥　尚　H17. 4　県立広島大学　生命環境学部　植物病理学・遺伝子工学　研究室　教授

露無慎二　H17. 4　静岡大学　農学部教授（遺伝子実験施設長　併任）

木原淳一　H17. 4　島根大学　生物資源科学部　植物病理学研究室　助教授

大口富三　H16. 3　愛媛大学　農学部　分子植物病理学研究室　教授　退官

中村正幸　H16.12　鹿児島大学　農学部　植物病理学研究室　助手

荒井　啓　H17. 3　鹿児島大学　農学部　植物病理学研究室　教授　退職

田中欽二　H17. 3　佐賀大学　農学部　付属資源循環フィールド科学教育センター　センター長・教授　退官

（2）農水省試験研究機関関係

木村　茂　H16.10　横浜植防業務部統括植物検疫官［同調査研究部統括調査官］

小板橋基夫　H16.10　農環研農業環境インベントリーセンター主研［九州農研野菜花き研究部主研］

佐藤成良　H16.10　横浜植防調査研究部統括調査官［同業務部統括植物検疫官］

高橋真美　H16.10　中央農研北陸水田利用部主研［農環研生物環境安全部主研］

竹原利明　H16.10　近中四農研地域基盤研究部主研［中央農研病害防除部主研］

若生忠幸　H16.12　野茶研葉根菜研究部ユリ科育種研室長［同部主研］

梅川　學　H17. 3　退職［中央農研環境保全型農業研究官］→生研センプロジェクトリーダー

佐藤　守　H17. 3　退職［生資研昆虫適応遺伝研究グループ長］

島貫忠幸　H17. 3　退職［北海道農研病害研室長］

白田　昭　H17. 3　退職［生資研研究交流科長］

西山幸司　H17. 3　退職［農環研微生物評価研究官］

本田要八郎　H17. 3　退職［中央農研病害防除システム研室長］

本間善久　H17. 3　退職［国際農研生物資源部主研］

村井　保　H17. 3　退職［果樹研生産環境部長］→宇都宮大学　農学部　教授

芦澤武人　H17. 4　中央農研北陸水田利用部主研［東北農研水田利用部主研］

石黒　潔　H17. 4　技会筑波事務所研究交流管理官［東北農研病害管理研室長］

小川　奎　H17. 4　再任［機構理事］

萩原　廣　H17. 4　野菜研究官［東北農研野菜花き部長］

大崎秀樹　H17. 4　近中四農研特産作物部主研［果樹研生産環境部主研］

兼松誠司　H17. 4　東北農研地域基盤研究部病害管理研室長［技会研究調査官］

川上　顕　H17. 4　中央農研病害防除部主研［北海道農研地域基盤研究部主研］

木村　茂　H17. 4　植防神戸・大阪支所長［横浜植防業務部統括植物検疫官］

笹谷孝英　H17. 4　技会研究調査官［近中四農研特産作物部主研］

佐藤　衛	H17. 4	機構総合企画調整部主研［野茶研果菜研究部主研］
澤田宏之	H17. 4	農環研企画調整部研究企画科主研［同生物環境安全部主研］
島根孝典	H17. 4	果樹研生産環境部病害研室長［同病原機能研室長］
仙北俊弘	H17. 4	国際農研沖縄支所長［近中四農研企画調整部長］
津田新哉	H17. 4	中央農研病害防除部病害防除システム研室長［同部主研］
土屋健一	H17. 4	近中四農研特産作物部長［農環研微生物機能研究リーダー］
長谷部亮	H17. 4	技会研究開発企画官［農環研有機化学物質研究グループ長］
福本文良	H17. 4	中央農研企画調整部上席研究官［北海道農研ウイルス病研室長］
眞岡哲夫	H17. 4	北海道農研生産環境部ウイルス病研室長［同部主研］
御子柴義郎	H17. 4	畜草研連絡調整室長［同病害制御研室長］
山口　勇	H17. 4	農薬検査所理事長［理化学研究所］
山路禎之	H17. 4	植物防疫課検疫指導班国内検疫係長［神戸植防業務部］
吉田幸二	H17. 4	果樹研生産環境部長［同病害研室長］

(3) 都道府県試験研究機関関係

忠　英一	H17. 4	青森県農林総合研究センター　フラワーセンター21あおもり
高橋　壯	H17. 3	退職（岩手県農業研究センター　所長）
仲谷房治	H17. 4	岩手県農業研究センター　生産環境部長
武田眞一	H17. 4	岩手県二戸農業改良普及センター　所長
赤坂安盛	H17. 4	岩手県農林水産部　農業普及技術課　担当課長
勝部和則	H17. 4	（財）岩手生物工学研究センター
岩館康哉	H17. 4	岩手県農業研究センター　病害虫部　病理昆虫研究室
石原寛之	H17. 4	宮城県栗原農業改良普及センター（名称変更）
山川隆平	H17. 3	退職(山形県農林水産部次長)
田中　孝	H17. 3	退職（山形県村山総合支庁農業普及課　課長補佐）
竹田富一	H17. 4	山形県農林水産部　農政企画課　副主幹
卯月恒安	H17. 4	山形県村山総合支庁　西村山農業技術普及課　主任専門普及指導員
黒坂美穂	H17. 4	山形県農業総合研究センター　農業生産技術試験場　バイオ育種科　研究員
瀬尾直美	H17. 4	宮城県産業経済部　農業振興課
根本文宏	H17. 4	福島県農林水産部　経営支援領域 研究開発グループ
園田高広	H17. 4	福島県会津農林事務所　会津坂下農業普及所
林　重昭	H17. 4	（社）福島県植物防疫協会
本橋みゆき	H17. 4	茨城県農業総合センター　水戸地域農業改良普及センター技師
後藤知昭	H17. 4	栃木県農務部経営技術課　環境保全型農業担当　主任
白石俊昌	H17. 4	群馬県農業局　蚕糸園芸課　生産環境室　植物防疫グループ　リーダー
柴田　聡	H17. 4	群馬県農業技術センター　生産環境部　病害虫グループ　リーダー
酒井　宏	H17. 4	群馬県農業局　農政課　普及指導室
三木静恵	H17. 4	群馬県農業技術センター　生産環境部　病害虫グループ
剣持伊佐男	H17. 4	群馬県農業技術センター　生産技術部　野菜グループ
橋本光司	H17. 4	埼玉県農林総合研究センター　生物機能担当　室長
瀧口康策	H17. 4	埼玉県病害虫防除所　担当部長

堀江博道　H17. 4　東京都農林総合研究センター　安全環境科　科長
竹内　純　H17. 4　東京都農林総合研究センター　安全環境科　主任研究員
嶋田竜太郎 H17. 4　東京都農林総合研究センター　安全環境科　研究員
栄盛弘已　H17. 4　東京都農業振興事務所　振興課　主任
片木新作　H17. 4　神奈川県農業技術センター　普及部
北　宜裕　H17. 4　神奈川県農業技術センター　野菜作物研究部
小林正伸　H17. 4　神奈川県病害虫防除所　次長
室井義広　H17. 4　神奈川県農業技術センター　普及部
野村　研　H17. 4　神奈川県農業技術センター　野菜作物研究部
岡本昌広　H17. 4　神奈川県病害虫防除所
岡本　保　H17. 4　神奈川県農業技術センター　三浦半島地区事務所
植草秀敏　H17. 4　神奈川県農業技術センター　農業環境研究部
寺井康夫　H17. 4　退職（山梨県果樹試験場　研究管理幹）
赤池良久　H17. 4　山梨県農政部　果樹食品流通課　課長補佐
市川和規　H17. 4　山梨県総合農業試験場　企画環境部　部長
市川　健　H17. 4　静岡県柑橘試験場　主任研究員
横山泰裕　H17. 4　新潟県農業総合研究所　企画情報部　企画調整室長
多賀由美子 H17. 4　富山県高岡農業普及指導センター　園芸畜産課
塚本昇市　H17. 4　石川県農業総合研究センター　資源加工研究部　生物資源グループ
安達直人　H17. 4　石川県農林水産部　農畜産課　普及研究係
八木敏江　H17. 4　石川県農業総合研究センター　総合研究部　病害虫防除室　担当課長
森川千春　H17. 4　石川県農業総合研究センター　資源加工研究部　生物資源グループ
川部満紀　H17. 4　岐阜県農林商工部　水田営農振興室
長谷部匡昭 H17. 4　滋賀県　南部振興局　農産普及課
冨家和典　H17. 4　滋賀県　東近江地域振興局　農産普及課
田中　寛　H17. 4　大阪府立食とみどりの総合技術センター　農業大学校　非常勤講師
嘉儀　隆　H17. 4　退職（大阪府立食とみどりの総合技術センター　非常勤所長）
草刈眞一　H17. 4　大阪府立食とみどりの総合技術センター　都市農業部　部長
瓦谷光男　H17. 4　大阪府立食とみどりの総合技術センター　都市農業部　総合防除グループ
岡田清嗣　H17. 4　大阪府立食とみどりの総合技術センター　都市農業部　総合防除グループ
渡辺博幸　H17. 4　鳥取県西部総合事務所農林局　米子農業改良普及所　普及主幹
粕山新二　H17. 3　退職（岡山県農業総合センター　農業試験場　副場長）
那須英夫　H17. 4　岡山県農業総合センター　農業試験場　北部支場長
新田浩通　H17. 4　広島県立農業技術センター　果樹研究所　常緑果樹研究室　室長
衣川　勝　H17. 4　香川県農業試験場　小豆分場　分場長
神余暢一　H17. 4　香川県農業試験場　府中分場　主任研究員
篠崎　毅　H16. 4　愛媛県病害虫防除所
楠元智子　H16. 4　愛媛県農業試験場　生産環境室
橘　泰宣　H17. 4　愛媛県病害虫防除所
清水伸一　愛媛県立果樹試験場　生産環境室

奈尾雅浩　H15. 4　愛媛県農業試験場　生産環境室
毛利真寿代 H16. 4　愛媛県西条地方局　農政普及課
森田泰彰　H16. 4　高知県農業技術課営農支援室　専門技術員
安達理恵　H16. 4　高知県農業技術センター　生産環境部　病理科　研究員
川田洋一　H17. 4　高知県中央農業振興センター嶺北農業改良普及所　チーフ（技術指導担当）
高橋尚之　H17. 4　高知県農業技術センター　生産環境部　チーフ（病理担当）
挾間　渉　H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　所長
加藤徳弘　H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　企画指導担当　主幹研究員（総括）
吉松英明　H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　企画指導担当　主幹普及員
宮崎英一郎 H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　病害虫担当　主任研究員
山崎修一　H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　病害虫担当　主任研究員
岡崎真一郎 H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　病害虫担当　研究員
佐藤通浩　H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　病害虫担当　主任研究員
大久保裕行 H17. 4　大分県農林水産研究センター　安全農業研究所　病害虫担当　研究員
後藤英世　H17. 4　大分県農林水産研究センター　野菜・茶業研究所　野菜担当　主任研究員
森田鈴美　H17. 4　大分県農林水産研究センター　水田農業研究所　水田農業担当　主任研究員
有馬　忍　H17. 4　大分県農林水産部　林産振興室　林業椎茸経営斑　副主幹

2. 学位取得者（課程博士・論文博士）

スカムト　H17. 3　東北大学　博士（農学）インドネシアにおけるトマトとアジェレイタムに感染するベゴモウイルスの分子特性に関する研究
田中　孝　H17. 3　岩手大学連合農学研究科　博士（農学）山形県におけるイネ苗立枯細菌病の発生生態と防除に関する研究
酒井淳一　H16. 6　東北大学　博士（農学）サツマイモに発生するポティウイルスの遺伝子構造と診断法に関する研究
富岡啓介　H16. 9　東北大学　博士（農学）菌類による花卉・野菜の新病害の病原同定と診断に関する研究
剣持伊佐男 H16. 2　千葉大学　博士（農学）キャベツバーティシリウム萎凋病の発生生態と防除に関する研究
石川成寿　H16. 9　東京農工大学大学院連合農学研究科（宇都宮大学）博士（農学）イチゴ炭疽病の病原菌，生態ならびに環境に配慮した防除技術開発
末廣典子　H16. 9　東京農工大学大学院連合農学研究科（宇都宮大学）生物生産学専攻　博士（農学）*Potyvirus* 宿主範囲決定の分子機構に関する研究
Budi Setiadi Daryono H17. 3　東京農業大学大学院　国際農業開発専攻　博士（国際農業開発）Studies on identification of melon virus in Indonesia and characterization of virus resistant gene in melon（卒業後は，インドネシア国立ガジャマダ大学講師）
金森正樹　H17. 3　東京農工大学大学院連合農学研究科　生物生産学専攻　博士（農学）イネいもち病菌の病原性関連遺伝子の探索と交配型遺伝子の発現解析

宇賀博之　H17. 3　東京農工大学連合農学研究科　博士（農学）わい性リンドウに発生するウイルス病および弱毒ウイルスを用いた防除法の確立に関する研究

石田祐二　H16. 7　静岡大学（岐阜大学連合大学院）博士（農学）*Agrobacterium tumefaciens* によるトウモロコシの形質転換方法の開発に関する研究

外側正之　H16. 9　岐阜大学　博士（農学）赤色系 *Fusarium* 属菌による各種植物病害に関する研究

古谷綾子　H16. 9　京都府立大学　博士（農学）イネ白葉枯病菌の病原性関連分泌タンパク質の発現・分泌制御機構に関する研究

上野　誠　H17. 3　島根大学（鳥取大学連合大学院）博士（農学）擬似病斑形成変異イネを利用したいもち病抵抗性の発現解析に関する研究

望月知史　H17. 3　大阪府立大学　博士（農学）植物茎頂組織のウイルス感染抑制機構に関する研究

梁　宝成　H17. 3　大阪府立大学　博士（農学）植物ウイルスの重複感染による病徴激化機構に関する研究

土肥浩二　H17. 3　京都大学　博士（農学）Studies on the RNA-dependent RNA polymerase complex of *Brome mosaic virus*

神田絢美　H17. 3　高知大学（愛媛大学連合大学院）博士（農学）青枯病菌 *Ralstonia solanacearum* の病原性機構に関する研究

澤田博正　H17. 3　高知大学（愛媛大学連合大学院）博士（農学）*Capsicum* 属植物の新たなトバモウイルス抵抗性に関する研究

増中　章　H17. 3　香川大学（愛媛大学連合大学院）博士（農学）Studies on biosynthesis genes for host-selective ACT-toxin produced by the tangerine pathotype of *Alternaria alternata*

Ida Bagus Andika　岡山大学　博士（農学）H17. 3　Studies on the RNA silencing-mediated resistance to *Beet necrotic yellow vein virus*

石賀康博　H17. 3　岡山大学　博士（農学）*Pseudomonas syringae* の Microbe-Associated Molecular Patterns（MAMPs）によるシロイヌナズナの防御応答解析

丸谷瑞理　H17. 3　岡山大学　博士（農学）*Pseudomonas syringae* pv. *tabaci* の病原性機構の解析

高原浩之　H16. 9　岡山大学　博士（農学）マメ科植物病原菌の病原性関連遺伝子の探索と形質転換系の作成

竹内香純　H16. 9　岡山大学　博士（農学）植物病原細菌 *Pseudomonas syringae* のフラジェリン糖鎖修飾と宿主特異性決定機構の解析

Sheila Robles Ruswandi　岡山大学　博士（学術）H16. 9　Studies on the genes related to pathogenicity and host-specific toxin production in the phytopathogenic fungus *Alternaria alternata* strawberry pathotype（植物病原糸状菌イチゴ黒斑病菌の病原性および宿主特異的毒素生成を制御する遺伝子群に関する研究）

奥田　充　H16. 11　九州大学　博士（農学）我が国で発生したトスポウイルスの遺伝的特性の解明ならびに検出に関する研究

冨村健太　H17. 3　鹿児島大学大学院連合農学研究科(佐賀大学)　博士(農学)
東西ユーラシア産カブモザイクウイルスの集団遺伝構造に関する研究

譚　鐘揚　H17. 3　鹿児島大学大学院連合農学研究科(佐賀大学)　博士(農学)
A study on evolutionary basis of host-specific adaptation of *Turnip mosaic virus*

3. 海外長期出張者

(1) 大学関係

宇佐見俊行　H17. 3　千葉大
～17. 9　ＵＳＡ　アリゾナ大学

稲垣善茂　岡山大学自然科学研究科助教授　英国ジョンイネスセンター(当初の予定：2005. 03-2006. 02)

【学会ニュース編集委員コーナー】

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております. 会員の各種出版物のご紹介, 書評, 会員の動静, 学会運営に対するご意見, 会員の関連学会における受賞, プロジェクトの紹介などの情報をお寄せ頂きたくお願いいたします.

投稿宛先：〒170-8484　豊島区駒込1-43-11
日本植物防疫協会ビル内
学会ニュース編集委員会
FAX: 03-3943-6086
または下記学会ニュース編集委員へ：
松山宣明, 加来久敏, 夏秋知英, 堀江博道, 富岡啓介, 各委員宛

編集後記：

学会ニュース第31号をお届けします. 平成17年度日本植物病理学会大会は３月29日～31日の３日間にわたり静岡で開催されましたが, その折, 名誉会員, 永年会員, 貢献者に推挙されました浅賀宏一, 高橋　壮, 赤井　純, 藤田育資, 瑞山重男, 井上成信, 石井正義, 中村廣明, 甲元啓介諸氏のご略歴とご挨拶をお載せしました. この度推挙されました皆様方の農業技術発展への長年の寄与, 学問や学会に対する様々なご貢献に心から感謝申し上げますとともに, 今後も21世紀の学問と技術の発展のために引き続きご教示, ご支援くださいますよう心から御願い申し上げます.

また, 会員の動静をご報告いたしましたが, 当編集部に届いていないニュースがございましたらご遠慮なくお知らせください.　（松山宣明）